

成果指標				
成果指標	利用者人数			
指標設定の考え方	施設利用の効果の判断基礎となる入場者数			
区分年度	24年度	25年度	26年度	
目標	18,000人	18,000人	18,000人	0
実績	19,149人	13,833人	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	3	C
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	2	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	ランチタイムだけの営業のため来場者増加にはなかなか方策がないのが実状である。リピーター客や新規顧客獲得のための魅力あるメニューを検討するとともに、他の観光施設や関係団体との連携を図りながら、来場者を増やしていく必要がある。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	3	C
		市民ニーズへの対応	2	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	D
		成果向上の可能性	2	
		施策への貢献度	2	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	H25中にレストラン経営者が交代し、松山市内等でも実績のある業者が運営に当たることで大きな期待を寄せている。ただ、昼食の単価がアップされたために、従来までの利用者等への影響も懸念される。増額に値するだけの、料理のグレードアップや地産地消をはじめジビエ料理などへの他との差別化が必要となるであろう。また、「栗の里公園」や「花の森ホテル」などとの連携による集客も重要であると思われる。指定管理者との連絡調整も重要であろう。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

下記の点を見直しの上、継続する。

意見、課題

運営状況を注視するとともに、指定管理のあるべき姿を常に検討すること。